

(5)地下水の予測・評価に関する意見

分類	主な意見の概要	事業者の見解
地下水	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下水について、予測評価の対象となるもの以外に多くの調査項目が挙げられており必要な調査かどうか疑問である。調査項目と予測項目が不一致であることの理由が不明であるので説明が必要である。</li> <li>沖縄の地下水系はカスト洞穴水系が主体であることを知らずに国の基準値での評価は全くナンセンスなのである。</li> </ul>	<p>環境影響評価を行うにあたっては、地域特性としての現況把握を行う必要があります。地下水については、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準としての環境基準項目を選定して調査を行っており、この結果を準備書に記載しました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海岸線への地下水の湧出現況とその変化についての詳細も示されていない。これらと海草、海藻、生死サンゴの分布は、密接に関連している。</li> </ul>	<p>海浜域での湧出状況について現地調査で状況を把握し、事業実施区域の前面の海浜域から常に湧出していることが確認されています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下水の濁り、汚れについて調査・予測・評価がなされていない。</li> <li>工事中・供用開始後の浸透ゾーンを経由する地下水や化学物質等についても予測・評価すべきである。</li> <li>供用後の排水は地下水の水質濃度に影響がないとあるが根拠が不明確。地下水に対する影響、地下浸透による浄化、赤土流出防止の信頼度など、予測に基づくデータを示した上で評価を行うべきである。</li> </ul>	<p>工事中及び供用後に地下浸透する排水は、基本的に工事区域内や滑走路、エプロン、駐車場等に降った雨水を浸透ゾーンへ導くもので、地下水汚染の原因物質は含まれていません。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下水の三次元的な挙動についての現状把握と影響予測がなされていない。特に切り土部分の石灰岩台地での地質構造と、地下水位についての把握と影響予測は重要であるが、検討していない。</li> </ul>	<p>地下水位の予測にあたっては、地下水の涵養量の多い琉球石灰岩及び名蔵礫層の分布している部分を対象に、面的な広がりとは鉛直方向の断面の検討を行っています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港が建設されることによって、地下水の流れが変わる。</li> <li>地下水系が変化すれば水質の変化も生じますしその結果として白保の海への影響は計り知れない。</li> <li>地下水の挙動変化も極めて大きな問題のはずである。しかし、「現況の流況を変化させない工法を検討し…」と記載して済まされている。具体的な工法等の記載が欠落したままでは影響評価を行ったことにはならない。</li> </ul>	<p>事業予定地周辺の水環境は海域の生態系にとっても重要であるとの認識から、地下水を含む水環境の形態を変化させないことを目標に施行計画を検討しました。その結果、ドレーン層や浸透ゾーンの設置を行うことで、地下水への影響を軽減することとし、浸透流のシミュレーション検討で、地下水水位の変化は極めて小さいものと予測しました。</p>